

景況調査

報告書 NO. 68

平成27年 7月～9月 実績
平成27年 10月～12月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成27年度第2四半期(H27. 7～9月)景況調査

1. 調査時点 平成27年9月10日～25日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内
(2)対象(回答)企業 127[120企業、7団体＝三河繊維工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

4. 回答企業の内訳

聞き取り調査によるアンケート調査

業 種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合 計	56 (3)	13 (2)	16 (1)	18	13 (1)	8	124 (7)

※ ()は団体

5. 概 況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比は△11.3、前期実績(4～6月△16.6)に比較すると5.3ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、前年同期比では△12.9、前期実績(4～6月△13.5)と比較すると0.6ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△7.3、前期実績(4～6月△21.8)に比較すると14.5ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△11.3、前期実績(4～6月・△20.3)と比較すると9.0ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H27.7～9)見通し**については△3.2、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △11.3)と比較する8.1ポイントの上昇であった。

「**製造業**」のうち食料品は原材料費の高騰を訴える企業が多い。繊維は、多重織りガーゼ素材は受注が順調で稼働率が高かった。ジャカードは深刻な状況。漁網・ロープは原材料価格が上昇。建築関係は好調も、土木、水産・漁網関係は低調。鉄工のうち工作機械関係は補助金等の効果もあり、6～7月は堅調に勝も8月に落ち込んだ。自動車関係はトヨタの国内日当たり生産は、新型車効果もあり、7月以降1万3千台水準で推移した。化学・プラスチックのうち、中国経済の混乱による売上への影響が懸念されたが、予測より堅調に推移した。プラスチックは売上高は減少予測であったが好転。原材料価格は安定しており、当初予測より利益率も上がった。

「**建設業**」は、受注高が伸び悩みで厳しい状況。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、＜産業資材関連＞原油安・円安・生活用品の値上げ等の原価上昇分を価格転嫁できず厳しい。＜寝装関連＞7～8月が高温続きで、夏物商材特に冷感素材がよく動いた。在庫も整理され好調であった。＜衣料関連＞春夏物は全般的にやや動きが鈍かった。秋冬物の動きが例年に比べ早く、一部商材では動きが見られた。

「**小売業**」は、消費意欲は低調で厳しい時期であった。**石油等その他小売**は、原油価格は7月以降大幅に下落。2009年以来の低水準となった。

「**サービス業**」のうち旅館関係は夏休みの天候やシルバーウィークの影響で好調。インバウンド関係にも大きく動きがあり、宿泊者数ベースで昨年比を上回っている状況。

「**運輸通信業**」 貨物輸送は、三菱自動車の完成車輸出が好調。鋼材の移入、海上コンテナ貨物の輸出も堅調であった。

設備投資状況は、34事業所(47件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は32事業所(42件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、人手不足、原材料(燃料)高が項目別で上位を占めていた。

当地区において 水面下ではあるものの、前期に続いて売上・収益・総合判断共に数値の改善が見られ、業種別でも好調な業種が多く見られた。比較的安定した動きの円相場、石油価格の下落、外国人旅行客の増加等のマクロ要因が下支えとする声も聞かれた。しかしながら、消費意欲の抜本的な改善は見られず、景気回復までは道半ばであるといえる。先行き不透明な中国景気動向も懸念されるが、景気の好循環の波及による地域経済の持ち直しが期待される。当所としてもアクションプラン推進はもちろん、中小企業相談所による伴走型経営支援体制の強化により、地域経済の持続的発展を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

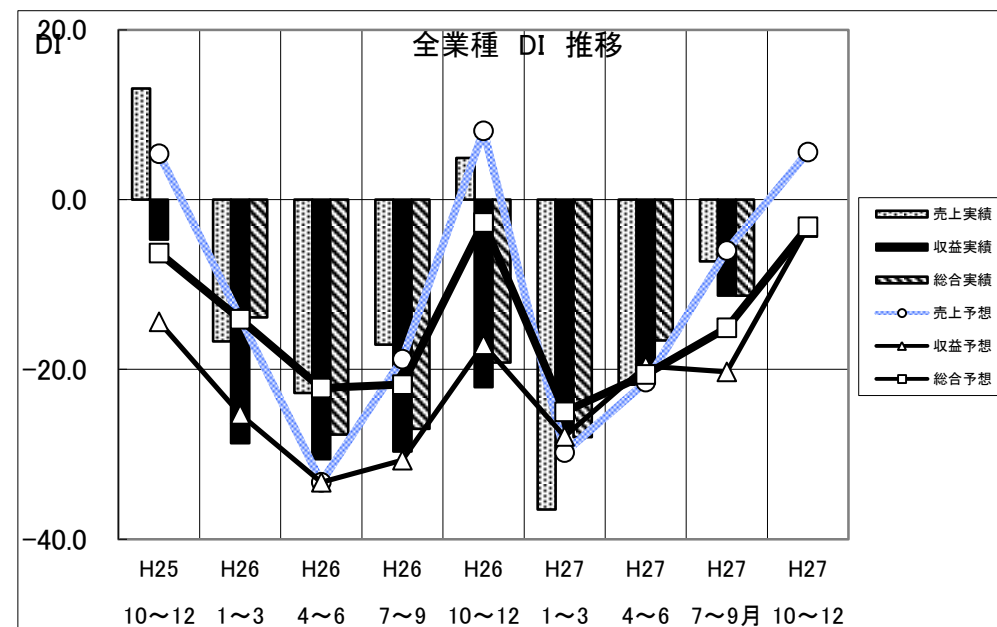
＜全業種 各項目期別推移＞

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し		売 上		収 益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-14.5	-7.3	5.6	H26. 7～ 9月実績	-9.0	-17.1	-36.0	-29.7	-22.5	-27.0	-2.7
②製品・商品在庫	-8.8	-5.6	-4.8	H26. 10～ 12月実績	-19.2	4.9	-29.9	-22.1	-20.2	-19.2	-25.0
③資金繰り	-1.6	-4.9	1.6	H27. 1～ 3月実績	-21.5	-36.5	-35.6	-27.1	-25.3	-28.0	-20.6
④採算(収益)	-18.6	-11.3	-3.3	H27. 4～ 6月実績	-17.3	-21.8	-21.9	-20.3	-13.5	-16.6	-15.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-3.2	-7.3	-0.8	H27. 7～ 9月実績	-14.5	-7.3	-18.6	-11.3	-12.9	-11.3	-3.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.9	-11.3	-3.2								

[総合判断]

業 種	前年同期比	前期比	見通し	業 種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲 食)			
(織 物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄 工)				(旅 館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H26.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H27.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売 上	13.1	-16.7	-22.8	-17.1	4.9	-36.5	-21.8	-7.3	5.6
収 益	-4.7	-28.7	-30.6	-29.7	-22.1	-27.1	-20.3	-11.3	-3.3
総 合	0.0	-13.9	-27.7	-27.0	-19.2	-28.0	-16.6	-11.3	-3.2

◎DI (ディフュージョン・インデックス 業況判断指数)について
DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少)
製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加)
資金繰り :DI=(好転)ー(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)
従業員数 :DI=(増加)ー(減少)
業況(総合判断):DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
DIが0 ⇒ 景気横ばい
DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上 DI 6~49% DI 5~-5%
DI -6~-49% DI -50%以下

6. 業種別報告

製造業

売上DI値は△14.3、前期実績4～6月期(△18.4)に比して4.1ポイントの上昇、収益DI値は△14.3、前期実績4～6月期(△15.0)に比して0.7ポイントの上昇、総合判断DI値は△17.8、前期実績4～6月期(△15.0)に比して2.8ポイントの下降と、売上・収益・総合ともおおむね横バイであった。

向こう3カ月の見通し 売上は・収益・総合ともに改善の見通しである。

製造業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-19.7	-14.3	10.7
②製品・商品在庫	-5.4	0.0	1.8
③資金繰り	-10.7	-10.7	-1.8
④採算(収益)	-26.8	-14.3	-1.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	1.7	-10.8	5.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-21.4	-17.8	3.6

【食料品】

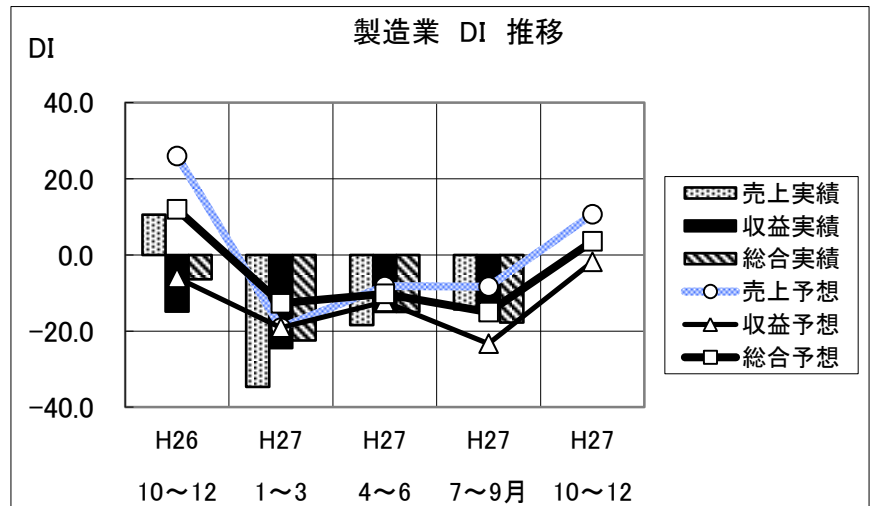
売上は、前期比ではDI値△75.0%と悪化の傾向。前年同期比ではDI値0.0%と横バイ。収益では、前期比DI値△50.0%、前年同期比でもDI値△25.0%と悪化、原材料価格の上昇を訴える企業が多い。総合判断では前期比DI値は△75.0%と、前年同期比でもDI値△75.0%と厳しい状況にある。

向こう3ヶ月の見通し 年末の需要期に入ることもあり、売上はDI値50.0%、収益DI値75.0%と好転の見通し。総合判断DI値は25.0%と改善の見通し。依然として原材料コストの負担感が高いなど厳しい経営環境下にあって、いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっている。愛知県産小麦や三河湾産アサリなど地産食材を活用した商品展開により販路開拓に取り組む企業が見られ、今後も地域性を売りにした商品開発の動きが期待される。

(食料品)

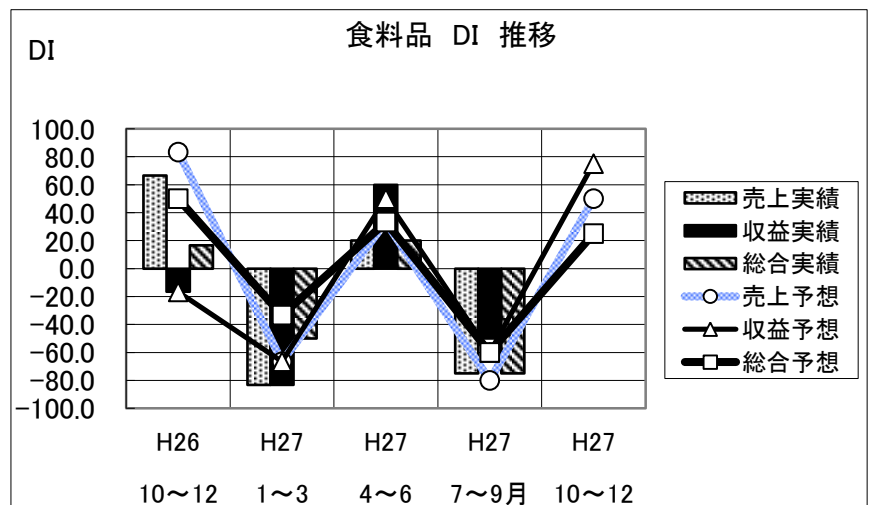
(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-75.0	50.0
②製品・商品在庫	0.0	25.0	50.0
③資金繰り	0.0	-50.0	25.0
④採算(収益)	-25.0	-50.0	75.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-25.0	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-75.0	-75.0	25.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H27.1~3	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	10.6	-34.7	-18.4	-14.3	10.7
収益	-14.9	-24.5	-15.0	-14.3	-1.8
総合	-6.4	-22.5	-15.0	-17.8	3.6



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H27.1~3	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	66.6	-83.3	20.0	-75.0	50.0
収益	-16.6	-83.3	60.0	-50.0	75.0
総合	16.6	-50.0	20.0	-75.0	25.0

[織 物]

寝装関係は、多重織りガーゼが堅調で安定して受注。一方でインテリア向のジャカードカーテンは、深刻な状況が続いており、産業資材も苦戦している状況。

向こう3カ月の見通し 寝装関係について、多重織りガーゼについては来シーズン向けが始まり新規受注に期待。

(織物)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-80.0	40.0
②製品・商品在庫	-20.0	-40.0	-40.0
③資金繰り	-20.0	-20.0	0.0
④採算(収益)	-20.0	-20.0	20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	0.0	40.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-20.0	20.0

[漁網・ロープ]

合成樹脂のアジア価格が順調で原油安にかかわらず、7月にはポリエチレン(PE)、ポリプロピレン(PP)が値上げ。漁網は水揚げ不振。国際規制で厳しい分野に。魚価高で一部好調分野もあり。建築は首都圏で大変好調。土木は非常に厳しい。車両は低位安定。スポーツは昨年比でやや悪化。ロープは不振。

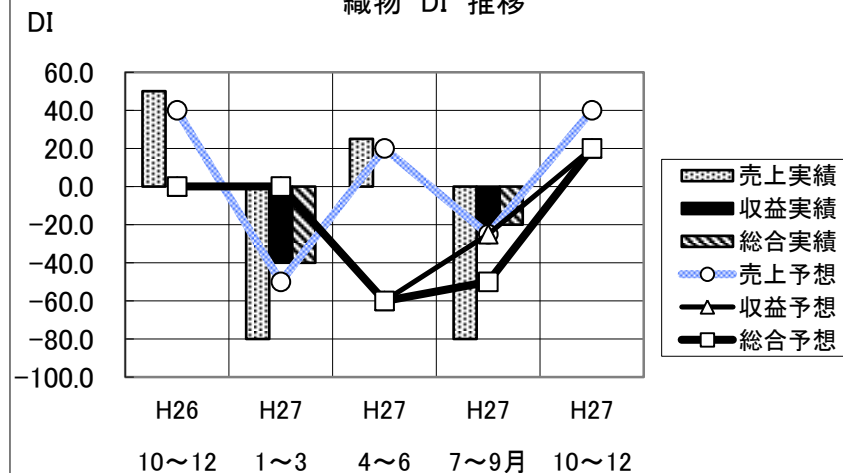
向こう3カ月の見込み 7月に値上げたPE・PPの出荷価格は値下げムード。米利上げ等で先行き不透明感が続く。建築は引き続き好調を維持する見込み。土木は今後需要が動く可能性あり。スポーツ・車両は横バイ。漁網・ロープは魚価高で好転の可能性有。

(漁網・ロープ)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-10.0	0.0	-20.0
②製品・商品在庫	-10.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	10.0	-20.0
④採算(収益)	0.0	20.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-10.0	20.0	-10.0

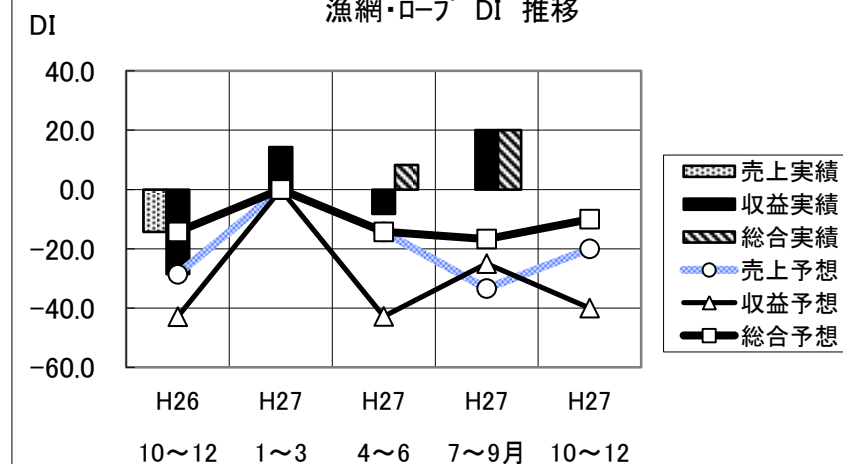
織物 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H27.1~3	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	50.0	-80.0	25.0	-80.0	40.0
収益	0.0	-40.0	0.0	-20.0	20.0
総合	0.0	-40.0	0.0	-20.0	20.0

漁網・ロープ DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H27.1~3	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-14.3	0.0	0.0	0.0	-20.0
収益	-28.6	14.3	-8.3	20.0	-40.0
総合	0.0	0.0	8.3	20.0	-10.0

[鉄 工]

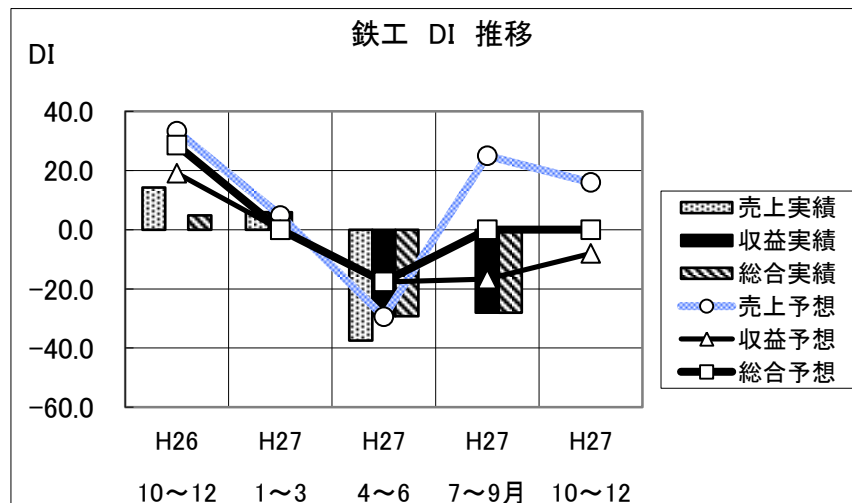
＜工作機械関係＞ 国内生産の受注は、国の補助金等の効果もあり、6月1,361億円、7月1,299億円と順調に推移したが、8月は1,070億円と落込んだ。向こう3カ月の見通し 北米は堅調に推移しているものの、中国向けが大きく減少してきており、国内需要も8月の落込みにより、この先については不透明感が出ている。このため、当地域の企業においても、来年3月までの受注は確保できているものの、4月以降は不透明さが増している状況。

＜自動車部品関係＞ トヨタの国内日当たり生産は、新型車効果もあり、7月以降1万3千台水準で推移した。向こう3カ月の見通し 10月以降は、1万2千台水準とやや弱含んでいるが、12月は新型ハイブリッド車の下支えする見通しであり、1万3千台後半の設定となっている。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-32.0	0.0	16.0
②製品・商品在庫	-8.0	-4.0	4.0
③資金繰り	-20.0	-12.0	0.0
④採算(収益)	-40.0	-28.0	-8.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	4.0	0.0	4.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.0	-28.0	0.0



＜業況判断DIの推移＞

	10~12月	H27.1~3	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	14.3	5.9	-37.5	0.0	16.0
収益	0.0	5.9	-29.2	-28.0	-8.0
総合	4.8	0.0	-29.2	-28.0	0.0

[化学・プラスチック]

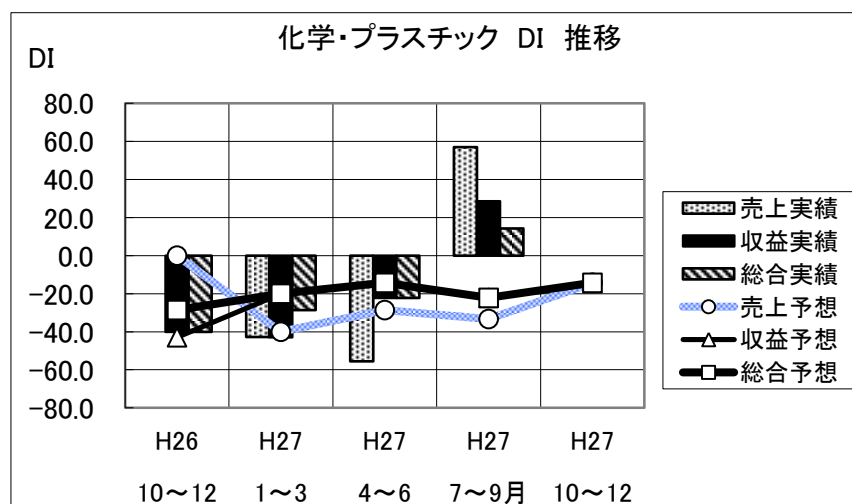
＜化学工業＞ 中国経済の混乱による売上への影響が懸念されたが、予測より堅調に推移した。向こう3カ月の見通し 原油価格の下落により原材料価格はしばらく抑えられる見通しも、中国景気の先行きが不透明感が懸念される。

＜プラスチック＞ 売上高は減少予測であったが好転。原材料価格は安定しており、当初予測より利益率も上がった。設備の老朽化の問題もあり、今後も設備投資が必要である。。向こう3カ月の見通し 製品価格の低下等により利益率が悪化が見込まれ厳しい状況。品質管理の徹底で顧客満足度の向上により売上増加を図りたい。(化学部会)

(化学・プラスチック)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	28.5	57.1	-14.3
②製品・商品在庫	0.0	14.3	-14.3
③資金繰り	14.3	0.0	0.0
④採算(収益)	-14.3	28.6	-14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	-14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	14.3	14.3	-14.3



＜業況判断DIの推移＞

	10~12月	H27.1~3	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	0.0	-42.8	-55.6	57.1	-14.3
収益	-40.0	-42.9	-22.2	28.6	-14.3
総合	-40.0	-28.6	-22.2	14.3	-14.3

建設業

売上DI値は△23.1、前期実績4～6月期(△△61.5)に比して38.4ポイントの上昇、収益DI値は△30.8、前期実績4～6月期(△38.5)に比して7.7ポイントの上昇、総合判断DI値は△38.5、前期実績4～6月期(△30.8)に比して7.7ポイントの下降。売上・収益は水面下ながら改善も、総合は悪化となった。公共工事の大幅な動きが見られず、低調に推移した期であった。

向こう3カ月の見通し 公共工事の受注が動き出し売上は改善も、収益・総合は水面下と慎重な見通し(建設部会)

建設業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-46.1	-23.1	7.7
②製品・商品在庫	0.0	0.0	7.7
③資金繰り	-7.7	-7.7	-7.7
④採算(収益)	-38.5	-30.8	-7.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-7.7	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-38.5	-38.5	-23.1

卸売業

売上DI値は18.8、前期実績4～6月期(0.0)に比して18.8ポイントの上昇。収益DI値は△12.5、前期実績4～6月期(△25.0)に比して12.5ポイントの上昇、総合判断DI値は12.5、前期実績4～6月期(△6.3)に比して18.8ポイントの上昇と、売上・総合は改善、収益は悪化もマイナス幅が縮小となった。

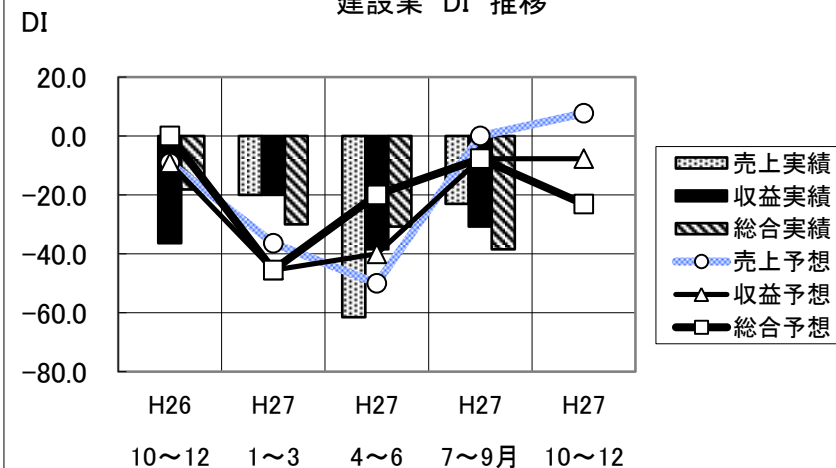
向こう3カ月の見通し 売上・総合は引き続き改善傾向にあり、収益は横バイの見込みである。

卸売業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-18.7	18.8	18.7
②製品・商品在庫	-31.2	-25.0	-31.2
③資金繰り	12.5	6.3	12.5
④採算(収益)	-31.2	-12.5	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	-6.3	-6.3
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	12.5	12.5

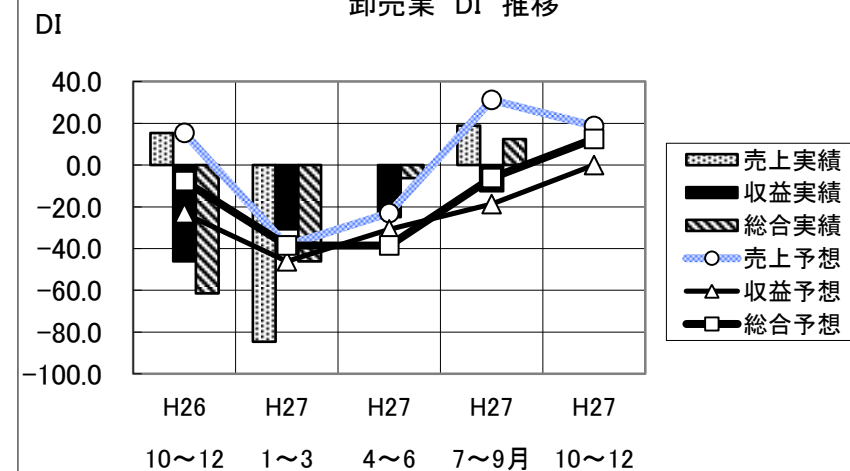
建設業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H27.1～3	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	0.0	-20.0	-61.5	-23.1	7.7
収益	-36.4	-20.0	-38.5	-30.8	-7.7
総合	-18.2	-30.0	-30.8	-38.5	-23.1

卸売業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H27.1～3	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	15.4	-84.6	0.0	18.8	18.7
収益	-46.1	-30.8	-25.0	-12.5	0.0
総合	-61.5	-46.1	-6.3	12.5	12.5

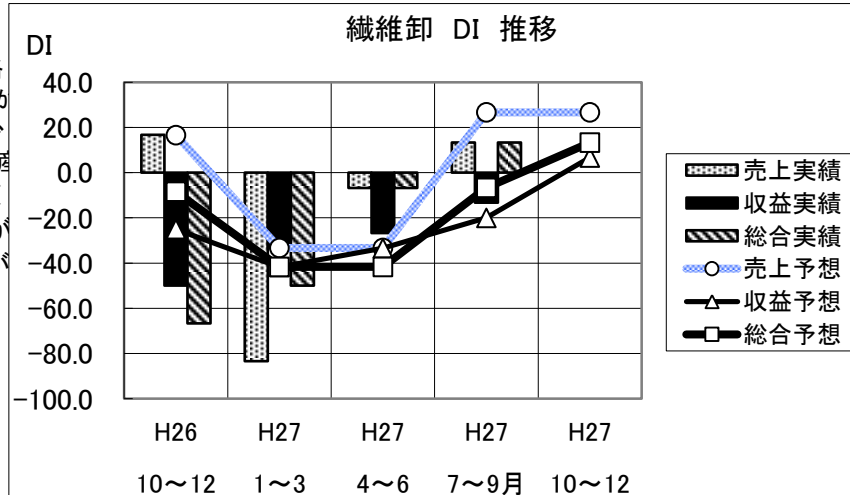
【繊維卸】

＜産業資材関連＞昨年末以降の原油安・円安・生活用品値上げ等の環境変化から1年が経過したが、市況が悪く価格転嫁進まず 向こう3カ月の見通し 求められる商品を製造し、製造原価の価格転嫁を進める。＜寝装関連＞7～8月が高温続きで、夏物商材特に冷感素材がよく動いた。今年の流通在庫は昨年の状況から整理された様子。店頭も在庫少なく、秋冬物の導入も予定より早く動いている。。向こう3カ月の見通し 天候に左右されるので見通しは不明。ただし生産はどこも慎重に入っており、在庫過多の可能性は少ない。商品によって売筋は早めに終了するかもしれない。＜アパレル＞春夏物は全般的にやや動きが鈍かった。秋冬物の動きが例年に比べ早く、一部商材では動きが見られた。 向こう3カ月の見通し 秋冬物が早い動きの関係で、中だるみを懸念。定番商材はかなり消化が期待される。来春夏の動きが9月くらいから出てきそう。注目素材はレース、ジャガードなど。（繊維部会）

（繊維卸）

（DI 単位：%）

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-13.3	13.3	26.7
②製品・商品在庫	-33.3	-26.6	-33.3
③資金繰り	13.3	6.7	13.3
④採算(収益)	-26.6	-13.3	6.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-13.3	-6.7	-6.7
⑥貴社の業況(総合判断)	6.6	13.3	13.3



＜業況判断DIの推移＞

	10~12月	H27.1~3	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	16.7	-83.4	-6.7	13.3	26.7
収益	-50.0	-33.4	-26.7	-13.3	6.7
総合	-66.7	-50.0	-6.7	13.3	13.3

小売業

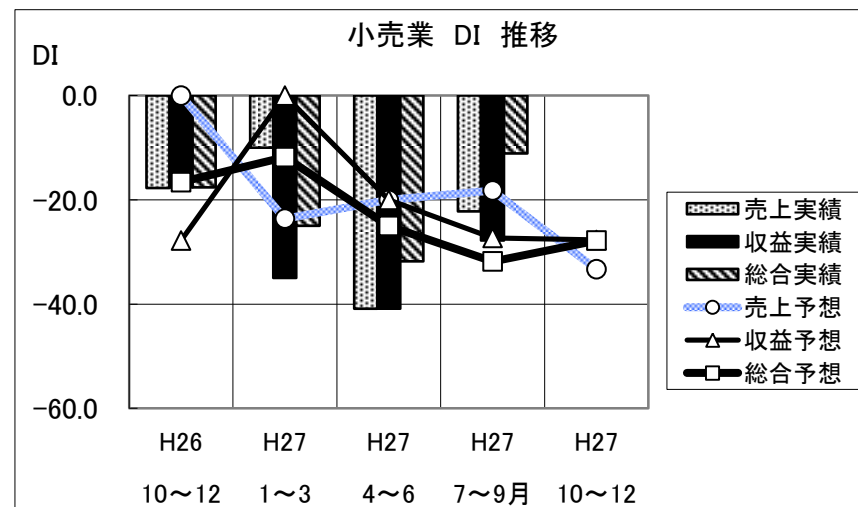
売上DI値は△22.2、前期実績4～6月期(△40.9)に比して18.7ポイントの上昇。収益DI値は△27.8、前期実績4～6月期(△40.9)に比して13.1ポイントの上昇、総合判断DI値は△25.0、前期実績4～6月期(△31.8)に比して20.7ポイントの上昇と、売上・収益・総合とも水面下ながら改善の傾向が見られた。。

向こう3カ月の見通し 収益は横バイも売上・総合は悪化の見通しと、年末需要期に向けても期待感が少なく、消費意欲の回復にはいましばらく時間が必要な見込みである。（商業部会）

小売業

（DI 単位：%）

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-22.2	-22.2	-33.3
②製品・商品在庫	-22.2	-16.7	-16.7
③資金繰り	-5.6	-16.7	-5.6
④採算(収益)	-38.8	-27.8	-27.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-5.5	-5.6	-5.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-22.2	-11.1	-27.8



＜業況判断DIの推移＞

	10~12月	H27.1~3	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-17.7	-10.0	-40.9	-22.2	-33.3
収益	-17.6	-35.0	-40.9	-27.8	-27.7
総合	-17.6	-25.0	-31.8	-11.1	-27.8

【飲食】

状況にあまり変化はなく、横バイ。ランチはある程度利用頂けるが、夜の一般客は少な目の状態。蒲郡GOGO商品券については、飲食店でも多くのお客様が商品券を利用していた。常連がメインであったが、商品券の利用として飲食店を選んでくれたことは大変ありがたい。

向こう3カ月の見通し 忘年会については例年より予約時期が早まっており、既に予約が入ってきている。本格的な予約はまだ先だが、例年並み以上を期待。「おらがの店自慢」が発行され、ガイドブックを持って立ち寄って頂けるお客様もあるので、大変良い取組の1つであると思う。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	0.0	-50.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-50.0	0.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	0.0	-50.0

【石油等その他小売】

原油価格は7月以降大幅に下落。WTI(期近物)はギリシャ債務問題や中国株急落を受けた投資家のリスク警戒を背景に1バレル＝52.53ドルに急落。イラン核協議最終合意が有無供給拡大に加え、米国の石油リグ稼働数や原油在庫の増加等の売り材料やドル高でWTIは下落。8月の人民元切り下げを契機に中国景気先行き不安と投資家のリスク回避姿勢が強まりWTIは下げ足を速め、世界的な株安で一時同37.75ドルと2009年2月以来の安値に。原油先物市場では、投機筋の買い越し額は昨年6月をピークに減少に転じ、足許でも再び大幅減少が続いている。

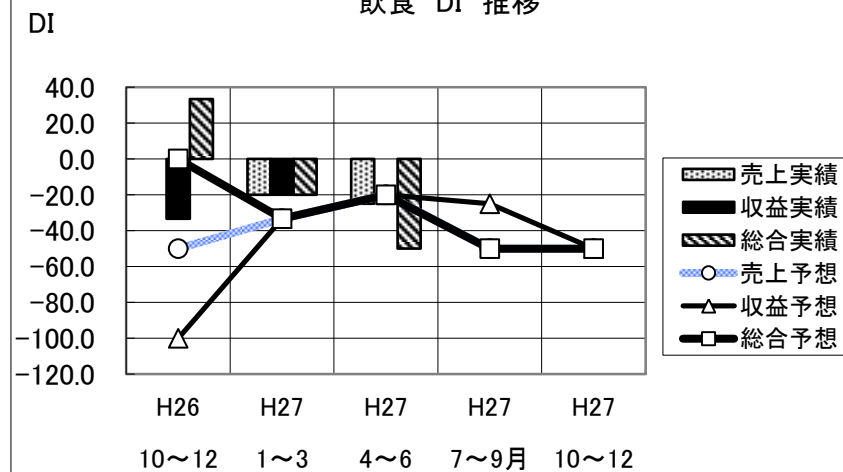
向こう3カ月の見通し 2015年後半にかけ、世界の原油需給バランスは供給超過が続く見込み。世界の需要は、先進国の景気拡大と新興国の成長持続で着実に伸びるも、依然として供給過剰が続く。供給では、米国のシェールオイル生産量こそ緩やかな減少基調を辿るも、OPECは大幅減産しない姿勢を維持し、2016年にはイランの生産増加も加わる見込み。原油価格は当面、中国ほか新興国の景気失速懸念が重石となる展開で低水準で推移しよう。2015年の後半にかけWTIは各四半期の平均で43～52ドル台の推移が予想される。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-87.5	-75.0	-50.0
②製品・商品在庫	-12.5	-12.5	-12.5
③資金繰り	0.0	-12.5	0.0
④採算(収益)	-50.0	-50.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-25.0	-12.5

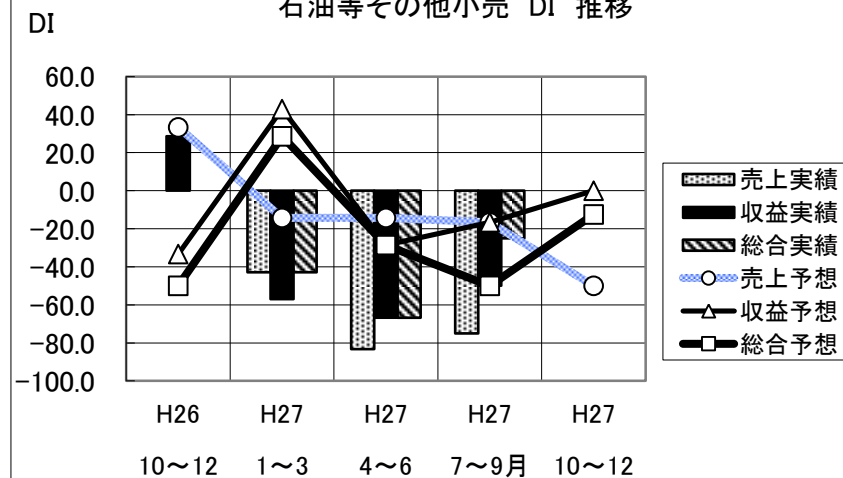
飲食 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H27.1～3	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	0.0	-20.0	-25.0	0.0	-50.0
収益	-33.3	-20.0	0.0	0.0	-50.0
総合	33.3	-20.0	-50.0	0.0	-50.0

石油等その他小売 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H27.1～3	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	0.0	-42.8	-83.3	-75.0	-50.0
収益	28.6	-57.1	-66.7	-50.0	0.0
総合	0.0	-42.9	-66.7	-25.0	-12.5

サービス業

売上DI値は23.1、前期実績4～6月期(△15.4)に比して38.5ポイントの上昇、収益DI値は15.4、前期実績4～6期(0.0)に比して15.4ポイントの上昇、総合判断DI値は7.7、前期実績4～6月期(0.0)に比して7.7ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともにプラスに転じた状況であった。

向こう3カ月の見通し 年末の需要期に向けて、総合は横バイも売上・収益は改善傾向が示された。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	53.8	23.1	30.8
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	15.4	15.4	0.0
④採算(収益)	30.8	15.4	15.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-23.1	-15.4	-23.1
⑥貴社の業況(総合判断)	15.4	7.7	0.0

【旅館】

夏休み期間の天候の良さ、6年振りのシルバーウィークなど好条件で宿泊者数は前年対比100%越え。愛知県のプレミアム宿泊券・観光券が予想以上に当地で使用されており、これも好条件と言える。好調要因の1つはインバウンドで、前年対比で累計400%超え。都市部が満室で地方へ流れているとの話も聞くが、各施設の営業努力の賜物とを感じる。また、MICEも前年対比増加。蒲郡GOGO商品券、プリンセス御膳(アカザエビ)等の好機も生かしたか。

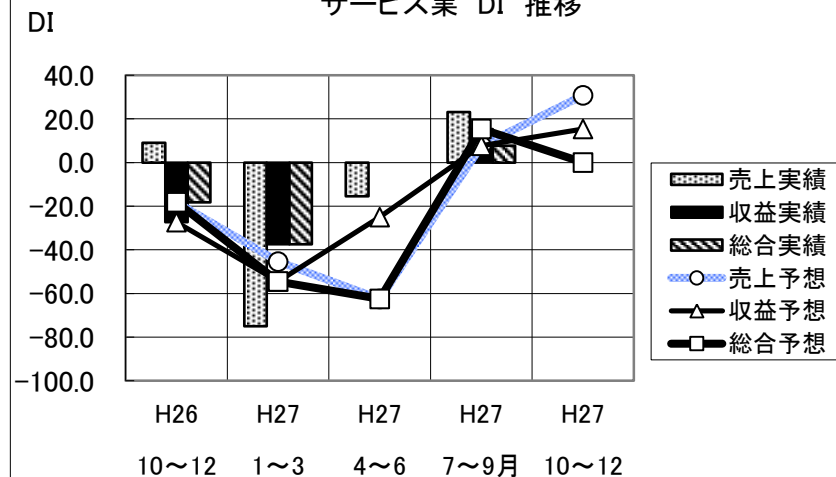
向こう3カ月の見通し 愛知県のプレミアム宿泊券・観光券は引き続き効果を発揮。5年目のオンパクも旨く生かしていきたい。市内の人材だけでなく、GOGO三河湾等の広域連携により、将来的には、セントレアから陸・海を通して蒲郡へ来ていただける仕組みを目指したい。近年、忘年会はやや低調な傾向であるがしっかりと確保したい。全国ご当地うどんサミット等の大型イベントによる蒲郡の発信力強化に期待している(観光部会)

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	100.0	83.3	66.7
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	33.3	33.3	0.0
④採算(収益)	66.7	50.0	33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	33.3	33.3	0.0

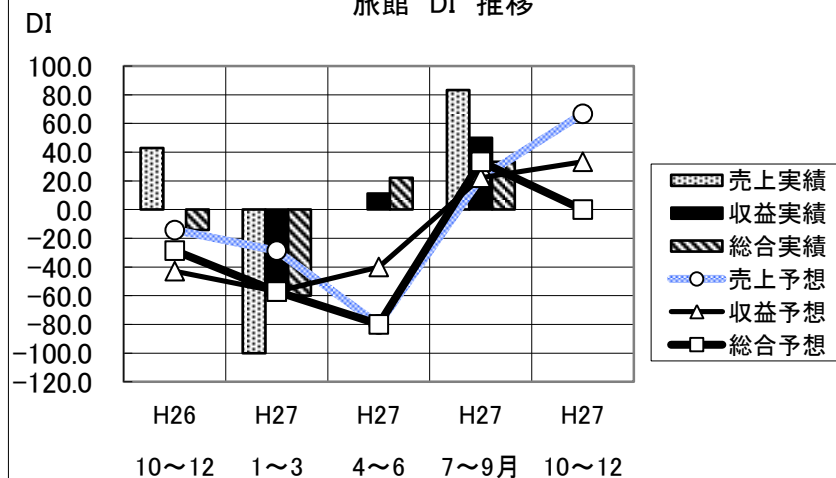
サービス業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H27.1～3	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	9.1	-75.0	-15.4	23.1	30.8
収益	-27.3	-37.5	0.0	15.4	15.4
総合	-18.2	-37.5	0.0	7.7	0.0

旅館 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H27.1～3	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	42.8	-100.0	0.0	83.3	66.7
収益	0.0	-60.0	11.1	50.0	33.3
総合	-14.3	-60.0	22.2	33.3	0.0

運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績4～6月期(11.1)に比して11.1ポイントの下降、収益DI値は37.5、前期実績4～6月期(0.0)に比して37.5ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績4～6月期(△11.1)に比して11.1ポイントの上昇と、売上は横バイも収益・総合とも改善した状況であった。

向こう3カ月の見通し 売上は悪化も、収益は改善・総合的には横バイと堅調な見通しである。

運輸通信業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	0.0	-12.5
②製品・商品在庫	12.5	0.0	0.0
③資金繰り	25.0	12.5	37.5
④採算(収益)	62.5	37.5	12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	12.5	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	37.5	0.0	0.0

[旅客・貨物輸送・水運]

＜貨物輸送＞ 三菱自動車の完成車輸出は月間8,700台と好調。10月以降も順調に推移する見込み。

鋼材移入・海上コンテナ貨物の輸出も堅調。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は新岸壁効果もあり、引き続き堅調に推移する見込み。その他の貨物は現状維持の見通し。

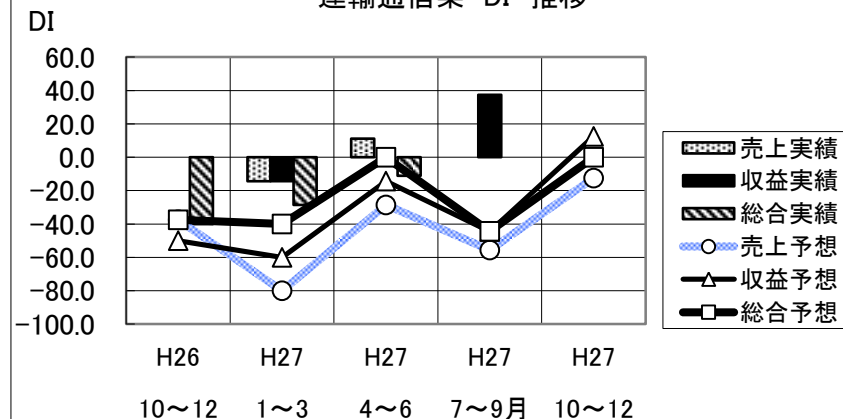
＜バス業界関係＞ バス代新運賃による法改正から1年が経過しツアー等の会費UPで若干売上は減少も、それ以上にツアー内容の変更等により支出を抑え、収益は上昇。向こう3カ月の見通し 行楽トップシーズンでバスもフル稼働であるが、ドライバー・ガイドの不足により受注を抑えている現状。ただし、収益はアップする見込み。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成26年7月～9月 に比べて	前期比 平成27年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成27年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-14.3	0.0
②製品・商品在庫	14.3	0.0	0.0
③資金繰り	28.6	14.3	42.9
④採算(収益)	57.1	28.6	14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	28.6	14.3	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	42.9	0.0	0.0

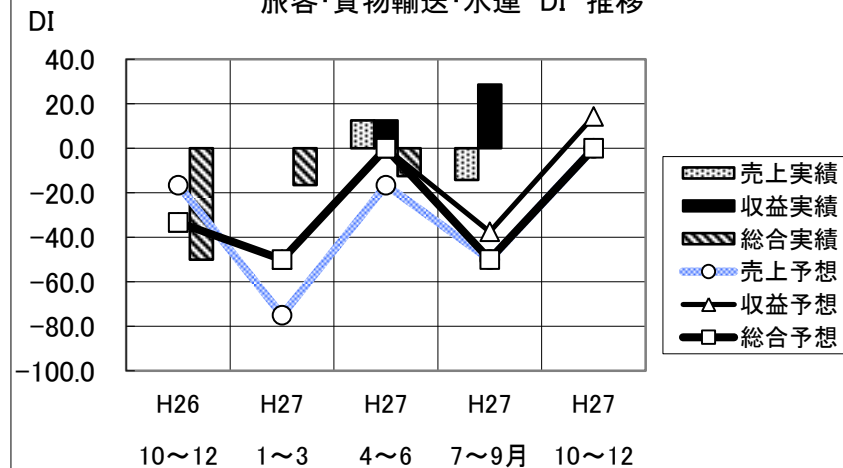
運輸通信業 DI 推移



＜業況判断DIの推移＞

	10~12月	H27.1~3	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	0.0	-14.3	11.1	0.0	-12.5
収益	0.0	-14.3	0.0	37.5	12.5
総合	-40.0	-28.6	-11.1	0.0	0.0

旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

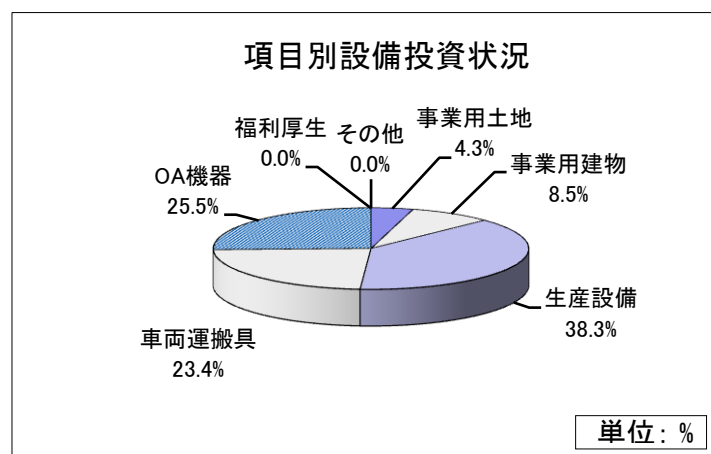
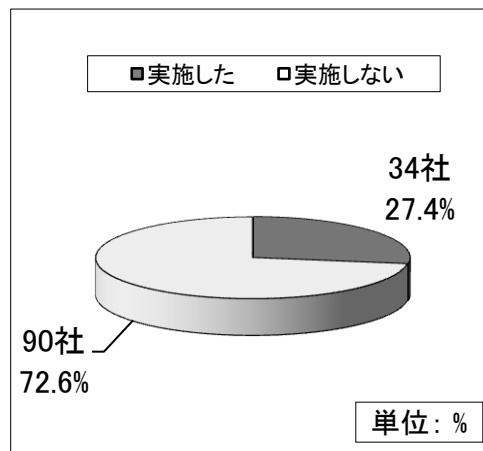


＜業況判断DIの推移＞

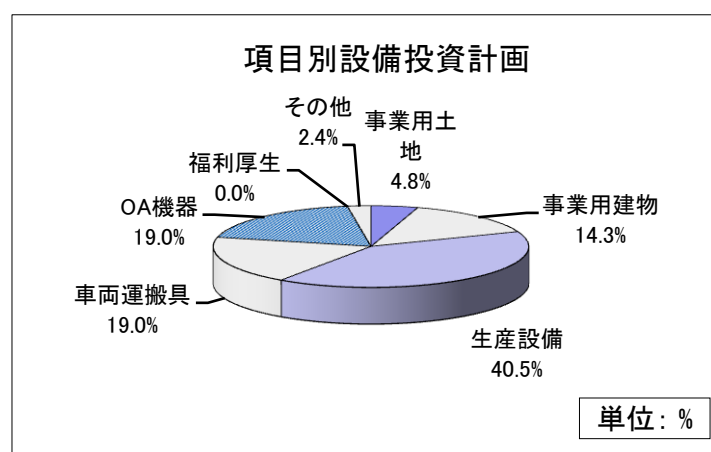
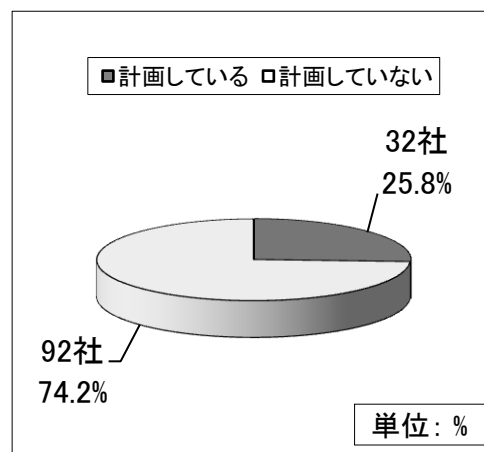
	10~12月	H27.1~3	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	0.0	0.0	12.5	-14.3	0.0
収益	0.0	0.0	12.5	28.6	14.3
総合	-50.0	-16.6	-12.5	0.0	0.0

7. 設備投資動向

＜今期(H27. 7～9月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H27. 10～12月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	2
事業用建物	4	6
生産設備	18	17
車両運搬具	11	8
OA機器	12	8
福利厚生	0	0
その他	0	1
計	47	42

(単位：件)

◎今期(H27.7～9月)、来期(H27.10～12月)設備投資実施、計画動向

(単位：事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H27. 7～9月)	34	20	1	1	4	4	4
2. 来期 (H27. 10～12月)	32	22	1	1	2	4	2

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 124 社)

	項 目	件 数 %
1	売上の停滞・減少	71 57.3%
2	利 幅 の 縮 小	63 50.8%
3	競 争 激 化	40 32.3%
4	人 手 不 足	35 28.2%
5	原材料(燃料)高	31 25.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 56 社	売上の停滞・減少 33 社 58.9%	利 幅 の 縮 小 26 社 46.4%	工場機械店舗の狭小・老朽化 16 社 28.6%
建設業 13 社	売上の停滞・減少 9 社 69.2%	利 幅 の 縮 小 9 社 69.2%	競 争 激 化 5 社 38.5%
卸売業 16 社	売上の停滞・減少 11 社 68.8%	原材料(燃料)高 9 社 56.3%	利 幅 の 縮 小 6 社 37.5%
小売業 18 社	売上の停滞・減少 11 社 61.1%	競 争 激 化 11 社 61.1%	利 幅 の 縮 小 11 社 61.1%
サービス業 13 社	利 幅 の 縮 小 7 社 53.8%	人 手 不 足 6 社 46.2%	売上の停滞・減少 4 社 30.8%
運輸通信業 8 社	人 手 不 足 5 社 62.5%	利 幅 の 縮 小 4 社 50.0%	売上の停滞・減少 3 社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.68

番号	調査項目	単位	H27. 11報告	基準日	H27. 7報告	基準日	H27. 4報告	基準日	H26. 12報告	基準日	出典
1	人口	人	81,432	H27.10.1	81,491	H27.6.1	81,636	H27.3.1	81,746	H26.12.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		2,260		2,239		2,206		2,191		
2	世帯数	世帯	31,344	H27.10.1	31,330	H27.6.1	31,203	H27.3.1	31,177	H26.12.1	〃
	(うち外国人)		1,056		1,052		1,043		980		
3	15才～65才生産人口	人	49,763	H27.10.1	49,964	H27.6.1	50,189	H27.3.1	50,508	H26.12.1	〃
	(うち外国人)		1,871		1,860		1,836		1,805		
4	建築確認届出件数	件	77	H27.6月～8月	96	H27.3月～5月	81	H26.12月～H27.2月	86	H26.9月～11月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
5	全国完全失業率	%	3.4	H27.9月	3.3	H27.4月	3.5	H27.2月	3.5	H26.11月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	2.7	H26.4月～6月	2.2	H26.1月～3月	2.7	H26.10月～12月	2.4	H26.7～9月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
6	全国有効求人倍率	倍	1.23	H27.8月	1.17	H27.5月	1.15	H27.2月	1.12	H26.11月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.70	H27.8月	0.67	H27.4月		H27.1月	0.75	H26.10月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労 働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消 費	
	完全失業者数	完全失業率	有効求人倍率	機械受注	新設住宅着工	名目国内総生産	実質成長率	消費支出	新車販売台数(登録車)
	(万人)	(季調・%)	(季調・倍)	(船舶電力除く前年比(%))	(戸数)	(兆円)	実質季節調整系列(前期比)	前年同月比% (実質)	(万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515.9		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	521.2		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	510.9		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	506.5		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	510.8		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	501.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	498.0		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	501.8		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	502.7		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	505.3		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	509.1		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,035,598	513.0		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,039,214	489.5		▲ 1.9	321.2
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 28.5	775,277	473.9		▲ 0.2	292.1
2010年度	334	5.1	0.52	18.7	819,020	480.5		0.3	322.9
2011年度	284	4.5	0.65		841,246	474.1		▲ 2.5	303.1
2012年1月	291	4.6	0.73	14.0	65,984			2.3	26.3
(平成24年)2月	289	4.5	0.75	▲ 9.3	66,928	118.5	1.0	2.3	33.3
3月	307	4.5	0.76	8.8	66,597			3.4	49.7
4月	315	4.6	0.79	8.8	73,647			2.6	20.8
5月	297	4.4	0.81	▲ 7.6	69,638	118.0	▲ 0.5	4.0	23.6
6月	288	4.3	0.82	▲ 11.4	72,566			1.6	31.7
7月	288	4.3	0.83	2.1	75,421			1.7	32.8
8月	277	4.2	0.83	▲ 19.2	77,500	115.7	▲ 0.4	1.8	23.2
9月	275	4.2	0.81	▲ 7.9	74,176			▲ 0.9	28.8
10月	271	4.2	0.80	▲ 4.4	84,251			▲ 0.1	22.5
11月	260	4.1	0.80	▲ 1.2	80,145	123.0	▲ 0.1	0.2	24.3
12月	259	4.2	0.82	▲ 12.6	75,944			▲ 0.7	21.4
2013年1月	273	4.2	0.85	▲ 27.3	69,289			2.4	22.9
(平成25年)2月	277	4.3	0.85	▲ 15.8	68,969	117.8	1.2	0.8	29.2
3月	280	4.1	0.86	7.0	71,456			5.2	42.0
4月	291	4.1	0.89	▲ 6.3	77,894			1.5	21.3
5月	279	4.1	0.90	15.2	79,751	118.9	0.4	▲ 1.6	21.9
6月	260	3.9	0.92	2.5	83,704			▲ 0.4	26.6
7月	255	3.8	0.94	2.2	84,801			0.1	28.4
8月	271	4.1	0.95	24.7	84,343	117.8	0.5	▲ 1.6	21.7
9月	258	4.0	0.98	23.4	88,539			3.7	32.4
10月	263	4.0	1.00	20.8	90,226			0.9	26.4
11月	249	4.0	1.00	5.6	91,475	125.5	▲ 0.1	0.2	27.6
12月	225	3.7	1.03	13.2	89,578			0.7	25.4
2014年1月	238	3.7	1.04	22.6	77,843			1.1	29.2
(平成26年)2月	232	3.6	1.05	16.1	69,689	120.7	1.2	▲ 2.5	33.6
3月	246	3.6	1.07	1.1	69,411			7.2	48.1
4月	254	3.6	1.08	46.1	75,286			▲ 4.6	18.8
5月	242	3.5	1.09	▲ 1.4	67,791	121.0	0.2	▲ 8.0	20.6
6月	245	3.7	1.10	15.5	75,757			▲ 3.0	26.5
7月	248	3.8	1.10	8.4	72,880			▲ 5.9	28.5
8月	231	3.5	1.10	0.3	73,771	118.5	▲ 0.6	▲ 4.7	20.6
9月	233	3.6	1.09	▲ 1.2	75,882			▲ 5.6	31.5
10月	233	3.5	1.10	▲ 1.6	79,171			▲ 4.0	24.0
11月	219	3.5	1.12	▲ 5.1	78,364	127.2	0.8	▲ 2.5	23.9
12月	210	3.4	1.15	1.9	76,416			▲ 3.4	23.1
2015年1月	231	3.6	1.14	11.2	67,713			▲ 5.1	23.7
(平成27年)2月	226	3.5	1.15	16.5	67,552	123.9	2.1	▲ 3.3	28.8
3月	228	3.4	1.15	9.8	69,887			▲ 9.6	41.8
4月	234	3.3	1.17	▲ 18.7	75,617			1.4	19.8
5月	224	3.3	1.19	0.4	71,720	123.8	0.1	4.8	20.9
6月	224	3.4	1.19	0.3	88,118			▲ 2.0	27.9
7月	222	3.3	1.21	1.0	78,263			▲ 0.2	28.2
8月	225	3.4	1.23	▲ 5.8	80,255			2.9	21.1
9月									30.5

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。